

レタス

みずみずしい食感を楽しむために、生のままサラダにすることが多いレタス。チャーハンなどの炒め物に使ってもおいしいですよ。

3月の農作業

作型

種は光が当たらないと発芽しないので、土は薄くかぶせる。酸性土壌と乾燥に弱い。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え			○	△	—	■	■						グレートレックス366

○：種まき △：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり 1a当たり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
植え付け1ヶ月前に土とよく混合	
元肥 1a当たり	
醗酵鶏糞	40kg
野菜専用肥料	5kg
畝立時施用	

- ・畝幅100～120cm
- ・株間30cm(2条、条間30～40cm)

定植

- ・本葉4～5枚の時、浅植する。(深植えすると結球が大きくなる)
- ・灌水し、根つきを良くする。(早期活着を図る。セルトレーの場合、本葉2～3枚で定植)
- ・多湿を嫌うので、排水の悪い場所では高畝にする。

追肥

- ・結球開始期に野菜専用肥料4～5kg/aを施用する。

防除

病害虫名	耕種防除	農薬による防除
菌核病	マルチ栽培する 発病株を早目に除去する 排水を良くする	ベルコート水和剤(1,000倍) 30日前まで3回
軟腐病 腐敗病 斑点細菌病	莖葉に傷をつけない 排水を良くする 防寒、防湿のためパスライトで被覆する	スターナ水和剤(2,000倍) 14日前まで2回 Zボルドー(500～800倍)
ヨトウムシ アブラムシ	幼虫が分散するまでに取り除く	エルサン乳剤(1,000倍) 21日前まで2回
オオタバコガ	早期発見し捕殺する	アフーム乳剤(1,000～2,000倍) 3日前まで3回

裏面はピーマンを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.287 平成27年3月17日発行

ピーマン

緑黄色野菜の代表格ピーマン。レモンと同じくらいのビタミンCが含まれており、風邪の予防や疲労回復、肌荒れなどに効果があります。

3月の農作業

作型

連作を嫌うので、ピーマン、ナス、トマト等のナス科植物の跡地には3～4年作付しない。低温に弱いので、無理な早植えをしない。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春 植 え				○	△	—	■	■	■	■	■	■	京みどり、グリーン800、京波

○：種まき △：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり 1a当たり	
堆肥	400kg
セルカ(有機石灰)	15kg
植え付け1ヶ月前に土とよく混合	
元肥 1a当たり	
醗酵鶏糞	50kg
野菜専用肥料	10kg
畝立時施用	

- ・1条植え：畝幅150cm
- ・株間：45～50cm
- ・マルチをする場合は、植え付け7～10日前に行い十分に地温を上げておく。
- ・深植えにならないように注意!

整枝・摘果

- ・第1花(果)より下から出る2本の側枝を伸ばし盃状に仕立てる。
- ・伸びてくる太い枝を支柱につり上げる。
- ・生育が進み込み合ってきたら、日がよく当たるように、枝を間引く。

追肥・敷きわら

- ・一番果の肥大始め頃から20日ごとに追肥する。(追肥の量：それぞれ野菜専用肥料4kg/aまたは油粕8kg/a)
- ・敷きわらは梅雨明け頃から厚く敷く。
- ・窒素過多、高温、水分不足は石灰欠乏症である尻腐れの発生を助長するので、乾いたら十分に水やりをする。
- ・パプリカは開花してから完熟するまで50～60日かかる。果実が100g以上と大きいため、変形果などは早目に摘果して草勢維持に気を配る。

防除

病害虫名	耕種防除	農薬による防除
疫 病	枝元を高くして植える。窒素の多施用を避ける。通風を良くする	リドミル粒剤2(2～3g/株)株元散布 前日まで3回
ウイルス病	早めに抜き取る	アブラムシ類の防除を行う
アブラムシ類	光反射フィルムマルチ並びにテープを用いる	トレボン乳剤 1,000倍 前日まで3回
ネキリムシ	幼虫の捕殺。周辺雑草の除去	ダイアジノン粒剤5(4～6kg/10a) 2回 定植時全面土壌混和

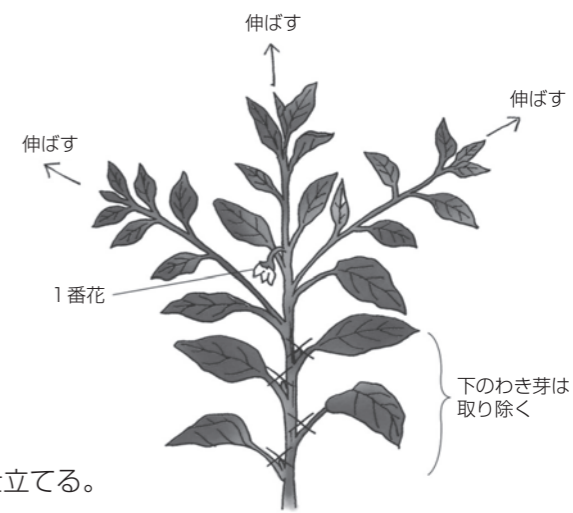
収穫

- ・実が大きくなったものから早めに収穫する。
- ・収穫が遅れると、赤くなったり黒ずんだりしてくる。

裏面はレタスを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.287 平成27年3月17日発行



苗づくり

- ・本葉2枚の頃に9cmポットに移植する。

灌水

- ・乾燥に弱いので畝の表面が乾かないように灌水する。生育を見て、液肥(200倍程度)の灌水も良い。
- ・結球し始めたら灌水を控えめにする。

収穫

- ・玉を手のひらで軽くおさえ、弾力がありかたく締めかけた頃(8割程度)に収穫する。(結球してしまうと苦みが出るので注意する。)

